

Q28 避難訓練における配慮

〈このような状態は自閉症の特性からきています。〉

避難訓練は、安全管理をするために大切なものですが、自閉症のA君は、避難訓練が大嫌いです。サイレンの音になると、耳をふさいでうずくまってしまう、みんなと一緒に避難することができません。

自閉症の子どもは、見通しが持ちにくいことで不安が強くなるため、決まった行動をとることで心理的な安定を保っています。避難訓練は、予定外の事柄で非日常的な活動であり、さらに感覚過敏という特性から、サイレンの音が生理的にひどく耳障りな音として聞こえていることも考えられます。

〈このような場合の支援 1〉

小学校5年生の知的障害を伴う自閉症の男児。避難訓練が苦手で、なかなか訓練に参加できません。ある時は、無理矢理校庭に避難させられたため大泣きしてしまいました。このような場合、支援の方法として以下のことが考えられます。

- ① 予告して、事前に避難訓練があることを知らせる。特に避難訓練に必要な具体的な行動を知っておく。
- ② サイレンの音が気にならないように、教室でも音量を小さくして聞くなど、事前に音に慣れておく。
- ③ なぜ避難するのか、避難する理由を伝え納得させる。例：「ここにいと、火事で焼け死んでしまう」
- ④ 学級でサイレンの音で避難する体験をし、成功体験を得てから実際の避難訓練を体験する。

〈このような場合の支援 2〉

小学6年生の高機能自閉症の男児。避難訓練の時に校庭に並んでいて、後ろの子どもと喧嘩を始めてしまいました。避難訓練では集団で行動しなければなりません。ところが高機能自閉症の子どもは、理解力がありますが、言語で自分の気持ちや状況を表現したりすることは苦手なため、独自の判断で行動しがちです。さらに、身体を動かすことが不器用な児童が多く、避難訓練のように集団で行動する際に状況に関係ない問題を起こすことがあります。このような場合、次のような支援が考えられます。

- ⑤ 訓練を行う意義を理解させ、避難訓練への意識を高める。
- ⑥ 必要なら事前に学級で避難訓練を行い、その経験をもとに適切な行動を確認させる。
- ⑦ 避難訓練を集団で行う際に、安全に避難できるようにするために行動を具体的に示す。例えば、友だちを「おさない、かけない、しゃべらない」の“お・か・し”の約束など。
- ⑧ 避難訓練の際に、行動の約束を守って行動できたか、事後指導をして振り返らせる。

※理解力はあるながら、実際の行動では、状況判断が甘くなり独自の行動に出てしまう傾向があるので、日頃の学級経営の中で、自分自身の行動を振り返る時間を設け内省していく習慣をつけていくことが大切です。この際に、学級全体のルールを明示する時期と、内省を深める時期を配慮して、実施していくことが効果的なようです。

学級担任の記録(メモ)

<項目の利用回数>



月/日	対象児の問題	教師やクラスの子どもの対応	対応後の対象児の様子